

■耳鼻咽喉科・頭頸部外科

1. 2021年度の目標および方針

1) 頭頸部外科領域の新規治療への取り組み

頭頸部外科岸本誠司部長が赴任して以来、頭蓋底手術を含む拡大手術は定常的に行われるようになった。一方で、近年では機能温存を目指した経口的手術が発展しており、鏡視下咽喉頭悪性腫瘍手術が保険収載されて収益面でも優位となった。当科は施設基準を満たしており本治療を積極的にすすめていく。将来的なロボット手術導入にも積極的に取り組んでいきたい。

また、2020年に切除不能な頭頸部癌に対する赤外線免疫療法（頭頸部イルミノックス治療）が世界に先駆けて本邦で承認された。実施可能な施設が限られる中、当院で実施可能となった。院内および県内にアピールをして症例を増やしていく。

2) 鼻科治療を充実させる

通常の鼻内内視鏡手術はこれまで通りアクティブに行いながら、ナビゲーションならびにEMM、Draf等の特殊性の高い手術方法を用いて、再発例や腫瘍性病変に対する鼻内内視鏡治療についても積極的に取り組んでいく。また、アレルギー性鼻炎や肥厚性鼻炎に対する粘膜下切除、後鼻神経切断術などの機能改善手術を積極的にアピールして症例を増やしていく。

3) 嚥下手術の推進

嚥下機能低下に対して、リハビリテーションと併用して、嚥下機能改善手術、喉頭形成術、喉頭気管分離術、喉頭部分摘出術などの外科的な介入を積極的に行っていく。経口摂取を諦めて胃瘻や中心静脈栄養に移行することも多く、潜在的なニーズは多いと考えられるが十分にくわえていない。まずは院内での啓蒙を行っていく。

4) 高気圧酸素療法の積極的な活用

突発性難聴の治療手段として有効な高気圧酸素治療について、今まで以上に高気圧酸素治療部との連携を深める。南房総地域以外の突発性難聴患者の受け入れも進められるよう、治療成績を発信したりすることでアピールしていく。

2. 2020 年度の評価

1) 頭頸部外科治療実績を発信する

頭頸部癌症例は従来どおり 1 年間で 100 例を超える症例が集まっており頭頸部癌認定研修施設としての基準を満たしている。頭頸部癌データベースの構築、症例集積も進んでいる。症例報告のみでなく臨床研究も進めており次年度には発表、論文化も期待できる。治療実績や臨床統計を用いた報告は行うことができなかったため、次年度への課題とする。

2) 鼻科治療を充足させる

COVID19 の影響で QOL 改善手術である鼻科手術件数は前年度 71 件から 59 件に減少した。しかし、EMMM は 1 件から 3 件、後鼻神経切断術は 0 件から 3 件へと増加した。鼻副鼻腔腫瘍手術は 4 例に施行した。かめだニュース 2/1 号、2/15 号においてアレルギー性鼻炎の外科治療として下鼻甲粘膜炎レーザー焼灼術と後鼻神経切断術を手術動画も掲載しながらアピールした。同内容をまとめたポスターを耳鼻咽喉科外来の待合室に掲載した。手術動画は Youtube の kameda Channel にもアップロードしている。

3) 頭頸部癌に対する経口的切除の推進

鏡視下咽喉頭悪性腫瘍手術は 6 例に施行した。その他、良性腫瘍や嚢胞病変の摘出、膿瘍切開も多数行った。一方で消化器内科との合同手術は 1 件のみにとどまり、より積極的に連携していく必要があると考えられた。

4) 機能温存手術、機能改善手術の推進

昨年度は嚥下機能手術を単独で行った症例はなく、頭頸部腫瘍治療の際に併施したのみとなった。院内関連各科における手術内容や治療効果の理解が十分でないと思われる場面もあり、当科からの周知、アピールが不足していると考えられた。主に、リハビリテーション科、脳神経内科などを対象とした勉強会などを行っていく必要がある。

5) 高気圧酸素療法の積極的な活用

突発性難聴症例については従来のようにステロイド投与不応例に行うだけでなく、初回治療としてのステロイド投与中から併用を積極的にすすめており、入院症例のほとんどに高気圧酸素療法を併用した。一方、治療成績の発信を行うことはできず、南房総以外からの高気圧酸素治療目的の紹介症例はなかった。

3. 科の年間活動内容と紹介

亀田総合病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科は南房総地域の基幹病院という性格上、地域で発生したほぼすべての耳鼻咽喉科疾患を扱うのが特徴となっています。鼻出血、頸部膿瘍、気道狭窄といった救急疾患から頭頸部癌の集学的治療、鼻副鼻腔疾患に対する鼻内内視鏡手術、喉頭の顕微鏡手術や機能改善手術、中耳炎手術などの専門性の高い疾患まで幅広い症例に対してチーム一丸となって治療を行っています。さらに目の前の症例に対応するだけでなく、より先進的な治療法の提供を目指しています。耳科領域においては、慢性中耳炎や真珠腫性中耳炎に対する顕微鏡下/内視鏡下耳科手術、突発性難聴に対する高気圧酸素併用治療や鼓室内ステロイド投与、鼻副鼻腔領域においては、ナビゲーション下での複雑症例手術、腫瘍性病変に対する鼻内内視鏡下手術、嗅覚低下に対する精密検査、喉頭領域においては、嚥下機能改善手術や喉頭気管分離術、声帯麻痺に対するコラーゲン/脂肪注入術、喉頭形成術などの音声改善手術が提供できる体制にあります。また、頭頸部外科領域においては、2014年度から頭頸部治療センターが設立され、形成外科と合同での遊離皮弁再建手術、頭蓋底外科などの拡大手術、経口的切除などの低侵襲手術、腫瘍内科や放射線科と共に化学放射線同時併用療法や腫瘍免疫療法、2021年度からは世界に先駆けて日本で始まった近赤外線免疫療法（頭頸部イルミノックス治療）など、極めて専門性の高い治療に対応しております。

4. 臨床実績

部位	術式名	件数
耳	鼓室手術	9
	鼓膜手術	6
	外耳道手術	1
	先天性耳瘻管摘出術	6
	その他	1
鼻・副鼻腔	内視鏡下鼻副鼻腔手術	45
	鼻中隔矯正術	6
	後鼻神経切断術	3
	下甲介粘膜レーザー焼灼術	10
	鼻副鼻腔腫瘍摘出術	4
	その他	1
口腔	扁桃アデノイド手術	34
	口腔良性腫瘍手術	1
	口腔悪性腫瘍手術	15
	膿瘍切開術	2
	その他	2
咽喉頭	喉頭微細手術	22
	咽頭良性腫瘍手術	4
	咽頭悪性腫瘍手術	15
	喉頭悪性腫瘍手術	4
頸部	頸部郭清術	10
	リンパ節生検	55
	顎下腺手術	7
	耳下腺腫瘍手術	12
	甲状腺腫瘍手術	40
	バセドウ病手術	3
	副甲状腺腫瘍手術	14
	頸部嚢胞、良性腫瘍手術	7
	膿瘍切開術	5
	気管切開術、気管孔手術	25
	その他	9
その他		11
合計		389

5. 学術実績

1) 原著論文

1. Heightened risk of early vocal fold motion impairment onset and dysphagia in the parkinsonian variant of multiple system atrophy: a comparative study. *Clinical Parkinsonism & Related Disorders*. 2020 Vol.3: 100037.
2. Dizziness after an earthquake tilted the house. *Auris Nasus Larynx*. 2020 Dec;47(6):1070-1073.
3. 中澤良太 明石健 岸本誠司 : 咽喉食摘後、血管吻合部の一時的な閉塞により、移植空腸内腔の癒痕化狭窄きたした一例. *頭頸部癌*. 2021 accept.
4. Yusuke Ito, Hironobu Nishijima, Seiji Kishimoto : A Case of Huge Cutaneous Verrucous Carcinoma of the Neck. *Cureus*. 2021 May;13(5):e15162.

2) 総説・レビュー等

3) 学会・研究会発表

1. 中澤良太、明石健、岸本誠司
咽喉食摘後、血管吻合部の一時的な閉塞により、移植空腸内腔の癒痕化狭窄きたした一例
第 43 回頭頸部癌学会 (2020/7 オンライン)
2. 山川かほる、明石健、岡本拓也、高橋雅章、岸本誠司、福田美佐緒、大山優
当院における Pembrolizumab の使用経験
令和 2 年度耳鼻科夏期臨床フォーラム (2020/7 東京)
3. 山川かほる、明石健、高橋雅章、岡本拓也、水本結、岸本誠司
第 82 回耳鼻咽喉科臨床学会 (2020/12 京都)
4. 水本結、山川かほる、岡本拓也、高橋雅章、明石健、岸本誠司
クロイツフェルト・ヤコブ病症例に対する気管切開術の経験
令和 2 年度耳鼻科冬期臨床フォーラム (2020/12 東京)

文責：明石 健